

## 安全衛生推進会議

平成29年6月9日

(事務局)

これから下刈が始まりますが、熱中症、蜂などに十分注意する事。エビペンの携行を促す。急傾斜地での作業が多いので滑落などに気をつけて作業を行うようにする事。

一昨年の労災事故をふまえ、刈払機の使用については十分な安全配慮を行う事。

林業安全コラム、安全ニュースを活用し安全対策を検討する。

(出席者)

蜂刺され、怪我等の際の対応などの確認を求める。(事務局)

緊急性があれば迷わず救急車の手配をする事。作業員全員に塩飴配布を行う。

出席者全員にヒヤリハットの報告を求める。(出席者)

急斜面なので、足元に注意しながら作業を行っている。

(事務局) 防府作業班に対してのリスクアセスメント報告書の作成

## 山地災害に備える

日本では毎年数千箇所もの山地災害が発生し、大きな被害を引き起こしています。地震や大雨等による被害を最小限に食い止めるには、防災意識向上と地域コミュニケーション作りが重要である。

### 山地災害から身を守る

- ① 川が濁った
  - ② 雨が続いていて水位が下がった
  - ③ 山の斜面に亀裂が走った
  - ④ 山の斜面から石が落ちてきた
  - ⑤ 濁った水が湧き水が止まった
  - ⑥ 湧き水の量が増えた
  - ⑦ 普段澄んでいる井戸水が濁った
  - ⑧ 地鳴りが聞こえてきた
- このような現象を発見したら山地災害が発生する可能性がありますので早めに避難して下さい。
- また、災害から身を守るためには、普段からの備えが大切であることから、家族や地域ぐるみで山崩れのおそれがある場所や避難場所について話し合うとともに、実際に自分の目で確認しておきましょう

### 下刈作業真っ盛り

7月に入ると下刈作業(草刈)がメインになってきました。今回は下刈の災害事例を掲載しましたので発生状況、災害発生原因、災害防止対策などをよく読んで作業の参考にしていただきたいと思います

刈払機による下刈作業中、キックバックを起こした刈刃で左足ふくらはぎを切創(災害発生状況)

1. 当日、被害者はチップソーを装着した肩掛式ツリグリップ刈払機を用いて、林地の平均傾斜約15度、林令35年の人工造林地に発生した風倒木被害跡地に新植したスギ3年生の下刈作業を一人で実行していた。

2. 作業は植栽木のやや上側を歩行線とし、山側約80cm、谷川約50cmの刈幅で等高線方向に刈り進み平均樹高55cmに成長した植栽木の周縁は操作押手前木を押しつつ、刈刃を反時計回りに一周させて処理していた。なお飛散防護カバーははずしていた。

3. 被災時、植栽木の手前、30cmの位置に直径25cm、高さ30cmの伐根があることから作業がスムーズに行かないと判断。立ち位置を約40cm下方に移して刈払機を肩掛け金具から外し、ほうき状に持ち替え操作した。

4. その際、飛散防護カバーを外していた刈刃の手前側が伐根に当たってキックバックをおこし、やや踏み出して左足すね当てを外れ、ふくらはぎ内側を切創した。

### (災害発生原因)

1. 飛散カバーを外した状態で作業したこと。カバーは切削物が作業側面に飛散することを防止すると同時に、刈刃手前側が異物と接触する自体を防いでいる。

2. 刈払機を肩掛け金具から外して使用したこと。さらに右手掌を上向き、左手掌を下向きにしたほうき状に持った状態であったこと。

3. 刈払い作業を切削してはいけない植栽木と、堅い伐根がある間の狭い場所であったにも関わらず、キックバックやスベリを誘発しかねない状況で操作するに当たって立ち位置の選択、刈刃を当てる方向等に慎重を欠いたこと。

### (災害防止対策)

1. 飛散防護カバーを正しく装着すること。雑草などの切削物が刈刃との間に詰まることを軽減しようと装着位置を刈刃から相当離している例も見受けられるが、飛散防護カバーを外したり、装着位置をずらしたりしてはいけない。
2. 刈払機の装着は肩掛け装具を正しく着用して、金具に吊すこと。肩掛けバンド、腰バンドは確実に固定する必要がある。ツリグリップ刈払機ではしばしば両手持持状態でほうき状に持ち替えて操作を行う場合があるが絶対に行ってはいけない。
4. 植栽木と雑草との競合状態によっては、植栽木の直近は取って雑草を刈り残す作業方法も検討する。

### 林業の基本作業と安全

1. 林業作業の特徴は(危険は身近なところに盛り沢山)
  - ・ 自然条件の影響を受け、不整地、傾斜地での作業
  - ・ 重量物、不安定な物を扱う作業
  - ・ 振動・騒音を伴う機械、鋭利な刃物による作業

・ 張力のかかったワイヤロープを扱う作業

・ 不整地、傾斜地を走行する車両系機械による作業

など、現場の作業条件は複雑で厳しく大きな危険を伴う作業である。

2. 林業労働災害を未然に防止するためには

・ 労働安全の基本と対策

・ 人間は誰でもミス(エラー)をする

人間だから①間違えることがある

② つい、うっかりがある

③ 忘れることがある

④ 気がつかないことがある

⑤ 不注意の瞬間がある

⑥ 一つしか見えない、考えられない

⑦ 先を急ぐことがある

⑧ 感情にはしることがある

⑨ 思い込みがある

⑩ 横着をすることがある

⑪ 人が見ていないとき違反をする

⑫ パニックになることがある

・ エラーの減少対策と共有できる職場の醸成

イ. 平成28年に発生した林業死亡災害の特徴

① 伐倒作業での死亡災害が多発、特に自己伐倒の割合が急増

原因は伐倒前の確認不足やかり木の不適正処理

② 林業死亡災害の6割強が60歳以上の高齢者

高齢者が全体の64%高齢者への配慮等対策が急務

③ 車両系木材伐出機械による死亡災害が増加傾向

車両系林業機械による集運材作業が増加傾向

ウ. 安全作業のポイント(基本作業の重要性)

① 服装と保護具などの完全着用

② 合図と指差呼称の完全実施

③ 近接作業と上下作業の禁止

④ 危険区域内の立入禁止と安全な区域への退避

⑤ 悪天候時の作業の禁止

⑥ マニアル通りの作業の実施

⑦ 振動予防対策の完全実施

⑧ 緊急時の連絡体制と救急用具

⑨ 使用機械器具の整備と点検

⑩ 蜂、その他危険動物から身体を守る

安全は基本作業の積み重ねである

・ 自分の身体は自分で守り、他人に怪我をさせない

・ やるべきことは必ずやる。やっつけてはいけないことは絶対にやらない

**安全には絶対はない**



### 熱中症ゼロへ



水分補給が熱中症の悪化につながる事も?!

水分補給していたはずなのに熱中症になったり、水分補給が逆に症状を悪化させたりすることもある。

高温多湿の屋内外で30分を超える長時間の労働やスポーツなど汗を大量にかくと、体内の水分とともに塩

分やミネラルも奪われます。そこに水分補給だけを行うと、血液中の塩分・ミネラル度(体内における塩分やミネラルの割合)が低くなり、様々な症状が出現します。つまり、水分だけを補給することがかえって、熱中症の発症へとつながったり、悪化させたりすることもあるのです。

※熱中症時の水分と塩分の補給の仕方

熱中症が疑われるときは、ただ水分だけを補給するのではなく、塩分も一緒に補給する事が重要です。自分で手軽に作れる食塩水もよいでしょう。目安として、1リットルの水に対して1〜2グラムの食塩を加えます。さらに、長時間のスポーツなどで失われた糖分を補い、エネルギーを補給するために砂糖などを加えると、水分や塩分の吸収が良くなる上に、疲労回復にもつながるので効果的です。手早く塩分・糖分を一緒に補給できるスポーツドリンクなどによる水分補給もおすすめです。ただしカフェインの入った飲み物は利尿作用が強くなるので避けましょう。

### ここがポイント

熱中症のときには、上手な水分・塩分補給がポイントです。水分だけでなく塩分も補給することで症状の改善が期待できます。塩分の補給は、塩分を含むアメ・タブレットや梅干しなどもよいでしょう。熱中症の症状がみられる際、意識がはっきりしない場合は大至急医療機関へ。意識がはっきりしている場合は、涼しい日陰や屋内で適切な水分・塩分補給を行い安静にすることで多くは改善します。いつもと違うなと感じたり不安があったりする時には医療機関を受診しましょう。また、こまめな水分・塩分の補給は熱中症予防にも有効です。とりわけ1時間を超える長時間のスポーツなどの際には塩分に加え糖分の入ったスポーツドリンクなどでこまめに水分補給することで、熱中症予防しましょう。

### 身近にある天然記念物

稔畑(うづぎはた)のノハナシヨウブ自生地

山口市下小鯖稔畑の山中(標高380m)の湿地帯にあるノハナシヨウブの自生地。ハナシヨウブの野生の多年草植物です。山中のためか平地のハナシヨウブの名所と比べて見頃はやや遅めの6月中旬。すでに花は枯れておりませんが、来年の見頃に訪れてはどうでしょうか。静かでのんびりして日頃の疲れが癒されるかもしれません。

